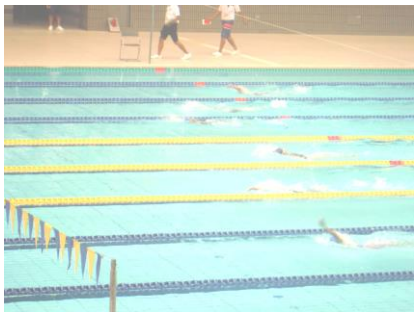
横浜市立瀬ヶ崎小学校　学校便り
せがさきの風
大きな朝日さしのぼる　希望と愛の花が咲く
世界に窓を開け放つ　瀬っ子輝く瀬ヶ崎
〒236-0037　横浜市金沢区六浦東三丁目２番１号
TEL 781-2446・2447　FAX 701-4892
ホームページ http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/segasaki/
メールアドレス y3segasa@edu.city.yokohama.jp

９月号
2017（平成29）年
８月２８日発行

夢をもち、一歩一歩

学校長　梅田　比奈子

「夢をもって、努力を積み重ねる。あきらめない。」先日、行われた横浜市の児童水泳大会のゲストとして、参加者に泳ぎを見せて下さったパランピアンの成田真由美さんの言葉です。



成田真由美選手は１３歳のときに「横断性脊髄炎」を発症し、後遺症で両下肢麻痺となり、車いすの生活になります。そして、２３歳のときに水泳を始めるのですが、足が不自由でない時から、水泳は苦手だったそうです。それが、ちょっとしたきっかけで水泳を始め、その魅力を感じ、着実に力をつけていきました。

成田選手は、足が不自由なだけでなく、心臓の病気があったり、体温の調節がうまく出来なかったり・・といったことがあるようですが、それでも、様々な工夫をしながら、練習を積み重ねていきました。そして、１９９６年のアトランタパラリンピックから２００８年の北京パラリンピックまで、４大会連続で出場し、金メダル１５個、銀メダル３個、銅メダル２個、合計２０個のメダルを獲得したのです。そんな成田選手が約 1600 人の横浜市の児童の前で、腕だけでクロール、平泳ぎ、背泳ぎの三種目を泳いでくれました。腕だけを使って、水面を滑るように泳ぐ成田選手。会場が静寂に包まれ、泳ぎ終わった後には、大きな拍手がわきあがりました。

「みんなは、今日、泳げる。でも、そのために、多くの人が支えてくれている。家族、先生はもちろん、このプールを作った人、維持している人・・・。」成田選手の言葉には、周りの人々に対する感謝の思いがこめられていました。そして・・

私は、成田選手の話を聞きながら、この夏の様々な出来事を思い出していました。

ロータリーが、素敵な提灯で飾られた柳町の盆踊りでは、子どもも大人も笑顔で踊る姿がみられました。太鼓を順番にたたく姿は、力強かったり、可愛かったり、私も楽しい気持ちになりました。

「今年の盆踊り、自分たちもステージに出ることはできませんか?」ある日、６年生の子どもたちが、私のところへ話しに来ました。そして、自主的に練習を重ね、盆踊りの開始前に自分たちのパフォーマンスをステージで披露した、六浦東の盆踊り。各町内会の子どもたちが、楽しく踊り、また、盛り上がっていました。

区や市の水泳大会目指して、一生懸命練習し、当日は自己ベストを出した子どもたち。やりきった子どもたちの笑顔は、輝いていました。

子どもたちは、成田選手のように、自分の目標を決めて努力したり、何らかのきっかけで地域行事に参加したりしました。きっと、他にも夏休みでなければできない経験をした子どもたちもたくさんいることでしょう。そして、その子どもたちには、地域の方や保護者のみなさんはじめ、たくさんの支えがありました。

六浦東の盆踊りでは、朝早くから、ステージややぐらを組み、食べ物等の販売等の準備が、素晴らしいチームワークのもと、進められました。柳町の盆踊りでは、今年増えた提灯をみなさんがきれいに取り付けていました。そして、当日は、子どもたちが安全に楽しく過ごせるように、どの地域でも大人たちが温かい眼差しで、見守ってくれました。この夏の様々な風景の中で、成田選手の「支えられている。」「自分の夢に向かって努力を積み重ねる。」ということが、散りばめられていたのを改めて感じました。

さあ、夏休みが終わりました。また、新たな一歩です。どんな自分になっていこうか、しっかりと考え、頑張ってほしいと思います。「自分を信じて」「仲間と共に」そして、「支えてくださっている多くの方々に感謝して」さらに、素敵な自分を目指していきましょう。